

# 麦茶用六条大麦「カシマゴール」栽培マニュアル

H27.3改訂版

茨城県農業総合センター 農業研究所

## 「カシマゴール」の特性 ～「カシマムギ」との比較～

オオムギ縮萎縮病に強い



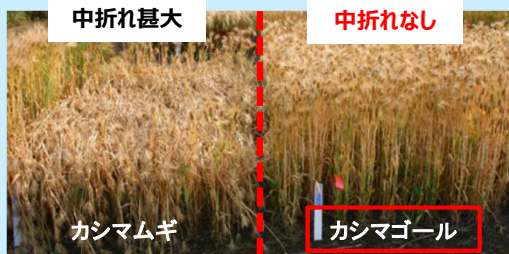
オオムギ縮萎縮病発生圃場における生育状況

### 出穂期・成熟期の比較

(平成22～26年度平均)

出穂期・  
成熟期は  
ほぼ同じ

| 品種         | 出穂期   | 成熟期   |
|------------|-------|-------|
| 水戸 カシマゴール  | 4月18日 | 6月1日  |
| カシマムギ      | 4月20日 | 6月1日  |
| 龍ヶ崎 カシマゴール | 4月9日  | 5月23日 |
| カシマムギ      | 4月10日 | 5月23日 |



成熟期の立毛状況

やや小粒だが、  
穂数が多く、  
やや多収

### 穂数・収量の比較

(平成22～26年度平均)

| 試験場所 | 品種     | 穂数<br>(本/m <sup>2</sup> ) | 収量<br>(kg/10a) |
|------|--------|---------------------------|----------------|
| 水戸   | カシマゴール | 664                       | 579            |
|      | カシマムギ  | 558                       | 560            |
| 龍ヶ崎  | カシマゴール | 673                       | 669            |
|      | カシマムギ  | 515                       | 622            |

## 排水対策

・排水の良い圃場に作付けし、特に輪換畑では暗渠・明渠等を施工し、排水対策を徹底する

## 播種

■播種適期は11月上旬、適播種量は  
やや薄播きの6～8kg/10a

・「カシマムギに比べ寒さに弱い」ので、県央以北ではやや早めに播種する

・早播きでは生育過剰による倒伏・小粒化を起こすため播種量は減らし、遅播きや深播きでは凍上害による株枯れ・遅れ穂の多発を招くため、播種量を増やす



◆播種期と10a当たり播種量(kg)

|    | 10月 |     | 11月 |   | 12月  |
|----|-----|-----|-----|---|------|
|    | 上   | 下   | 上   | 下 | 上    |
| 播種 |     | 4～6 | 6～8 |   |      |
| 量  |     | 4～6 | 6～8 |   | 8～10 |

↑適期

## 基肥

■基肥窒素量はやや少なめの6～8kg/10a

・「カシマムギ」に比べて、穂数が増えやすく過繁茂になりやすいので、基肥窒素量はやや少なめにする

・窒素量は、圃場の肥沃度に応じて増減する

## 追肥

【注意】茎立ち期以降のトラクタによる踏圧は、穂の損傷や遅れ穂の多発による収量・品質の低下を招くため、機械による追肥作業にはハイクリアランスの管理機等を利用する

■転換畑ではタンパク・千粒重向上のために、  
出穂期に窒素成分で4～6kg/10aの追肥を！

・収量450kg/10a以上を得るには、**茎立期の生育量【草丈(cm)×茎数(本/m<sup>2</sup>)】を30,000以上を確保する**

・出穂期頃の追肥は、粒の充実・タンパク向上に効果的  
ただし、生育量が不足していると、遅れ穂が多発するため、窒素量を減らすか施用時期を早める

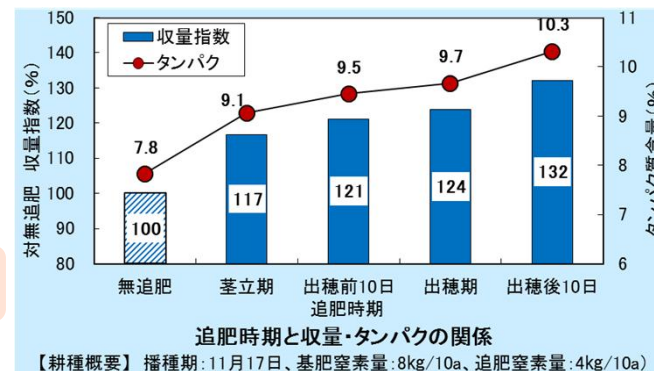
・「カシマムギ」に比べて葉色が淡いため、追肥量は葉色だけでなく、全体の生育量から判断する

## その他の管理

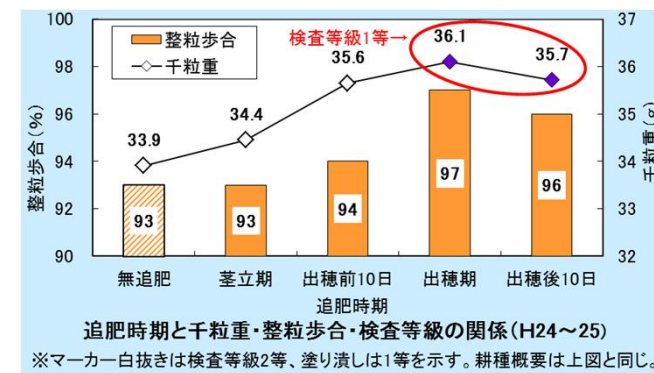
・種子は必ず毎年更新し、種子消毒を行う

・麦踏みは、分けつ開始期～茎立期まで土壌が乾いている時に10日間以上の間隔を空けて行う

・赤かび病の防除を徹底する。防除適期は、出穂～穂揃期に開花を確認した時(出穂期の3日後)である



【耕種概要】 播種期: 11月17日、基肥窒素量: 8kg/10a、追肥窒素量: 4kg/10a



追肥時期と千粒重・整粒歩合・検査等級の関係 (H24～25)

※マーカ一白抜きは検査等級2等、塗り潰しは1等を示す。耕種概要は上図と同じ。